

2024 年度(令和 6 年度)学校評価自己評価表

幸千中学校区	校番 15	福山市立御幸小学校
最終更新日		2024年(令和6年)4月15日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○子どもに力をつけるために、先生方が新しい手法・ツールを模索しながら、多様な取り組みをされている。 ●保護者・地域住民への積極的な情報発信を行い、連携をさらに深めて欲しい。	児童生徒の現状 ●不登校出現率が高い。 ●体力テストにおいて、県の平均値以上の項目が少ない。 ○地域行事やボランティア活動に主体的に参加する児童・生徒が年々増えている。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	思考力・創造力 表現力 思いやり 能動的市民性 ○主体的に学び よく考える児童生徒 ○自分なりに表現し伝え合う児童生徒 ○思いやりのある児童生徒 ○人や社会に貢献しようとする児童生徒 ○住み続けられる町づくりを考えることを目的とした学習を校に各教科と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III 自校

ミッション 一人一人が自立し、社会に貢献できる子どもの育成	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	思考・想像力 自ら問いを見つけ、見通しを持って、調べたり考えたりしながら解決することができる。	表現力 目的や理由・根拠をとらえ、相手意識を持ち、自分の考えを伝えることができる。	思いやり お互いの立場や意見を尊重し、相手も自分も大切に、協働しながら生活を高めることができる。	能動的市民性 身の回りから課題を見つけ、学校生活をよりよくするために、仲間と協力して解決することができる。
学校教育目標 自ら考え 行動し 挑戦する児童の育成 ～自考・自行・自挑～	現状 ・児童会が中心となり、学校行事などで相手意識を持ち、アイデア豊かに自ら考え挑戦していた。 ・「授業で考えることで、わからないことがわかるようになりましたか」92.4%…落ち着いた授業に向かう環境ができている。 一昨年度「友だちの意見につなげて発表していますか」47% 昨年度「学級の友達との話し合い活動を通して自分の考えを広げることができた」85%…特別活動を中心に様々な教科で話し合い活動を仕組んだ。 ・教師や大人の指示をよく聞いて動くことができる一方、自分から気づいて考え行動する力が十分ではない。 ・長期欠席児童は、昨年度29名。 ・地域の方々の学校への協力、愛着が強く、学校を支える風土が強い。一方宅地造成等で新たな居住者も激増し、困難な課題も増加している。	研究 テーマ 問いを持ち、「対話」を通して、学びを深める子どもの育成 ～付ける力を明確にした言語活動の充実～ 内容等 特別活動、総合的な学習の時間を中心に児童が社会・世界をよりよく変えていく学びづくり 実生活と体験活動に基づいた言葉と数の理解を深める授業づくり・単元づくり	めざす授業の姿 児童自らが問いを持ち、つきたい力を明確にし、友達と協働しながら課題を解決して学びを深める授業		

福山市立御幸小学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	力を入れた評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力を入れた評価	達成評価	総合評価
1	自ら学びに向かう力、学び続ける力を育成する。	★	継続	児童が自ら問いを持ち、教材・他者・自己との対話を通して、「分かった」「できたようになった」「考えが深まった」という自己の変容を実感し、学力向上を図る授業をつくる。	研究授業や校内研修を通して、授業力向上を図る。また、研究主題と日々の教材研究がつがるように研修を行ったり、児童の見取りを大切にしたりすることで、授業改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「授業を通して考えることで、分からないことが分かるようになったり考えが深まったりした。」90%以上 ・学期末到達率80点以上(国・算)80%以上 								
1	互いを認め合える豊かな心を育成する。	★	継続	多様な人間関係の中で様々な価値観に触れることができるように、多様な集団での活動の場を設定し、豊かなコミュニケーション力を高める。	縦割りの班活動や、1・6ペアなどのグループワークを行ったり、児童会を中心として代表委員会を運営したりし、組織的な動きの中で自己の役割を果たす。	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年の友達と協力して掃除をしたり、休憩時間には遊んだりすることができた。 80%以上 ・委員会や係活動などで自分の役割を果たすことができた。 80%以上 								
1	自分の生活習慣を整え、たくましい心と体を育成する。	★	新規	自分に必要な体力要素を中心に運動量を増やし、体力向上に向けて意欲を高めるとともに、食事や睡眠について生活を見直し、健康への意識を高める。	新体力テストの結果を基に身に付けた体力要素を決め、体育科や家庭学習での運動に取り組む。定期的に食事・睡眠・運動を意識して過ごしているか自己チェックを行い、それぞれの生活習慣を高めることの良さを児童や保護者に朝会や通信等で発信していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた運動に粘り強く取り組み、楽しみながら体力を高めることができた。 85%以上 ・規則正しい生活習慣(食事・睡眠・運動)を意識して過ごすことができた。 80%以上 								

2	児童は生き生きと学び、職員は生き生きと働く学校の創造	継続	学校の取組を校内外に積極的に発信し、地域、保護者、学校間で情報共有を図る。	保護者・地域を巻き込んだ教育活動を推進する。 取組の進捗や実態分析について、主任等による校内発信を活性化する。	・保護者アンケート 「御幸小の取組に満足している」 90%以上 ・「仕事に意義ややりがいを感じている」 90%以上										
---	----------------------------	----	---------------------------------------	------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。